

# 高校生の医薬品に関する理解度について

西岡 亮太 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 谷川 尚己

キーワード：医薬品教育，医療用医薬品，OTC 医薬品

## 1. 緒言

世界保健機関 (WHO) は平成 12 年に「セルフメディケーション (自分自身の健康に責任を持ち，軽度な身体の不調は自分で手当てすること)」を提唱した。また，セルフメディケーションの手段の一つとして，医薬品の使用に関するガイドラインを示した。

そこで，本研究の目的として，滋賀県内高等学校 2 校に対して「医薬品教育」を実施し，その授業前に，医薬品教育に関する「薬を服用するときの注意について」のアンケート調査を行い，その理解度を図ろうとした。

## 2. 研究方法

滋賀県内 2 高等学校の 1 年生 176 名に対して，授業前に 14 項目のアンケート調査 (○，× の 2 つからの選択式) を行った。

## 3. 結果と考察

図 1 は，中学校の時期に，保健体育科の授業で医薬品教育を受けたかどうかについての調査結果である。医薬品教育を受けていた者は 30% と比較的低い数字が示された。学校現場では「医薬品教育 = 薬物乱用防止教育」と考える傾向があり，医薬品教育について認識されていない現状であることも原因の一つであると考えられる。

2 校の高等学校のアンケート結果では平均正答率は 76% だったが，S 中学校出身の生徒の全体の平均正答率は 88.1% であった。S 中学校出身以外の生徒の平均正答率は 75.7% と S 中学校出身の生徒と比較すると，大きな差が表れる結果となった。即ち，医薬品教育を実施していた S 中学校出身の生徒の正答率が高いこと

が分かり，中学校の時から医薬品教育を実施することが有効であると思われる。

S 中学校出身の 18 人中 16 人の生徒が医薬品教育を受けていることを覚えており，なおかつ授業内容を覚えている生徒が多くいた。このことは，昨年度，本大学の学生が S 中学校で医薬品教育の授業を行った効果だと考える。S 中学校出身の生徒の医薬品教育の授業の感想では授業内で行った「実験が印象的であった」と答えた生徒が多くいた。

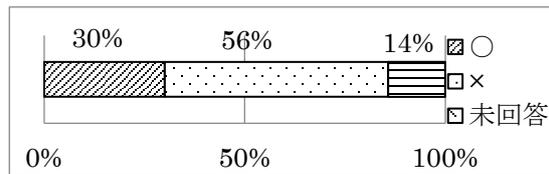


図 1 中学校の時に医薬品教育を受けたかどうか

## 4. まとめ

今回の研究において，意識を維持していくためには各発達段階によって繰り返し学習させることで，医薬品教育の効果が高まることが分かった。また，「医薬品教育の授業」を実施したことで薬に対する意識や理解度が変化しており，「医薬品教育の授業」が有効であったと言える。

## 5. 引用・参考文献

くすりの適正使用協議会 (2012) くすり教育のヒント～中学校学習指導要領をふまえて～」薬事日報社：東京 2-10

文部科学省 (2009) 「高等学校学習指導要領」117-118